

地方公共団体等におけるCM方式活用事例集（概要）

CM方式の活用事例

事例集は全国の地方公共団体等におけるCM方式を活用した事業（事例）の中から、他の地方公共団体がCM方式を導入・活用する際に参考となる事業（教育施設、病院、庁舎等）を中心に取りまとめました。事業の性質ごとに各事例を分類し、掲載しています。

事例集の項目

掲載内容は、事業概要をはじめ課題や成果、契約概要や実施体制、活用のポイントなど、実際にCM方式を導入する際の具体的な手続等について参考となる情報を取りまとめています。

さらに事業の抱えている課題とCM方式導入による成果（課題解決）について、ポイントとなる項目を抽出し、品質・コスト・スケジュールごとに分類することで、導入成果がより具体的に把握できるよう整理を行っています。



項目	記載内容
①事業が抱える課題とCM方式導入の成果	各発注者が事業が抱えていた課題に対して、CMRが果たした役割とCM方式導入の成果についてポイントとなる内容をまとめています。
②業務の実施体制	CM方式導入にあたり、各関係者（発注者、設計者、設計監理者、施工者等）とCMRの相関関係や役割を図解しています。
③契約概要	CM方式を導入する際の選定方式、契約相手方、契約金額等を記載しています。詳細では導入に向けた具体的な検討内容や選定方法、積算の考え方等を参考として紹介しています。
④活用のポイント	実際にCM方式を活用された発注者の方々の意見や感想をもとに、より効果的にCM方式を活用するためのポイントやCM方式を導入する際の留意事項を紹介しています。



分類（課題・成果）	目標・課題	CMRの役割	成果
①品質	◆ 数十年に一度の庁舎建替や複雑な条件下での改修事業のため、発注者側にノウハウや技術力が不足	◆ 要求水準書の作成など、契約に必要な書類の作成等	◆ 発注者の予定していた要求品質の確保を実現
②コスト	◆ 仕様と建設コストのバランスのとり方が困難	◆ 仕様に優先度を付け、コストの再配分方法を提示	◆ 当初予定していた事業費内での事業実施を実現
③スケジュール	◆ 既存施設の一部を使用しながらの改修工事のため、複雑な工程計画立案のが困難	◆ 設計者、施工者の両方の技術を踏まえ、実施可能かつ効率的な工程計画を立案	◆ 円滑な施工調整の実施が可能となり、工期遅延を防止

※その他、実際に事業を円滑に推進するために用いたツール等が掲載されています。